技

鳴子漆器

MAP **25 佐藤漆工房・ギャラリー漆木舎**（うるしぎゃ）

昭和56年に独立を機に設立した「佐藤漆工房」は、その後平成12年に文政8年(約190年前)の古民家を利用した「ギャラリー漆木舎」をオープン。漆器だけではなくもともと建築にも漆塗りの技術を取り入れたかったご主人の思いを形に、家全体が漆工芸のギャラリーとなっており、カフェでくつろぐこともできる。

- 0229-87-2361
- http://urushigoya.com/
- 9:30～17:00
- 火曜定休

鳴子こけし

MAP **22 上野こけし店**

昭和39年の東京オリンピックの時に、鳴子中学校のこけしクラブで作ったこけしを選手に参加賞として贈ったご縁より、「ゆきむすび」のおにぎりを販売する「むすびや」。おにぎりの具や調味料には、鳴子温泉地域や県内産の食材からふんだんに使われている。

- 0229-87-2651
- 8:00～17:00
- 不定休

鳴子太鼓

MAP **16 鳴鼓堂**（なるこどう）

昭和25年創業、先代とともに鳴子に工房を構え、太鼓を作り始めて50年を超えたという鳴鼓堂。3つの工程に合わせて工房も3棟に分けており、全てが受注生産。原木選びから乾燥、加工、仕上げの塗装装の様々な工程を手づくりで行う。皮の張替、修理、文字書き、彫込なども請け負っている。

- 0229-87-2448

古民家再生

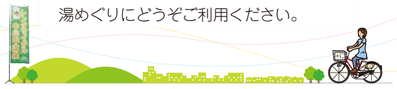
MAP **13 古遊工房・(株)遊佐建築**（こゆう）

木の文化を大切に、自然素材、伝統工法で取り組む古民家再生を請け負う職人の技。住まいから店舗まで木の持つぬくもりを大切にする工房。伝統工法を活かし自然素材の住宅の新築・増築、リフォームや、店舗の建築を手がけている。住む人の立場に立った家づくりを実践している。

- 0229-87-2062
- http://www.koyu-kobo.co.jp/

中山平温泉レンタサイクル

自然豊かな中山平温泉の観光名所周りや
湯めぐりにどうぞご利用ください。



ご利用時間
午前9:00～午後5:00まで

ご利用料金
500円(3時間まで) 800円(1日・8時間)

ご利用申込は中山平温泉駅前の下記商店へ

イイダストアー 0229-87-2778

※ご利用には身分証明書(免許証等)のご提示が必要です。
※料金の支払いは、はじめにお願いします。
※鍵のかけ忘れ・故意・違法行為などによる自転車の盗難・破損・故障の場合は、実費にても客様の負担となります。
※ご予約は出来ません。
※交通ルールやマナーを守ってご利用ください。

詳しくは http://www.nakayamadaira.com/

中山平温泉携帯サイト

「みのり」という名前には、
陸羽東線のキーワード
「稲穂」実りある収穫、
「温泉」実りあるひととき、
「紅葉」実りの秋
「実り多い旅にしてほしい」
という意味が込められています。

陸羽東線「リゾートみのり」好評運行中

運転日は最新の時刻表でお確かめください。
http://www.jr-sendai.com/

※リゾートみのりは全車指定席(禁煙)です。ご利用の際には事前に指定席券をお買い求めください。※指定席券の他に乗車券が必要です。※ご利用日の1ヶ月前の午前10時より JRの主な駅みどの窓口、びゅうプラザまよりなど主な旅行会社等で発売開始。※ご利用の際は、最新の JR大型時刻表等でお確かめになるか、駅係員にお尋ねください。

JR東日本

MAP **8 板そば 藤治朗**（とうじろう）

- 0229-87-2322
- 11:00～14:30
- 火曜定休
- http://www.narukoradon.com/

中山平温泉郷にある、素朴な田舎そばで人気のお店。こねる・ゆでる・たれ・だしに温泉水「玉鳴号」を使用するこだわりのそば。隣接する別棟の小部屋では、原泉100%の足湯に浸かりながら食事に舌鼓が打てるというおススメの食べ処。

MAP **11 むすびや**

- 0229-29-9436
- 11:30～13:30
- 水曜定休

うるち米とも糯米の中間の性質を有し、モチモチ感と粘りがあり、冷めても硬くなりにくい特徴を持った「ゆきむすび」のおにぎりを販売する「むすびや」。おにぎりの具や調味料には、鳴子温泉地域や県内産の食材からふんだんに使われている。

MAP 3 6 **なる子ちゃんこ鍋**

写真はイメージです。

東日本大震災直後、横綱白鵬関・大相撲宮城野部屋一行が、震災慰問交流で訪れた際に振る舞った宮城野部屋のちゃんこが鳴子温泉地域の新名物としてデビュー。中山平温泉では旅館2軒で提供されている。

- 0229-83-3441（鳴子観光・旅館案内センター）
- 0229-87-2216（名湯秘湯 うなぎ湯の宿 旬樹庵 琢ひで）
- 0229-87-2121（鳴子やすらぎ荘）

MAP **9 ゆの駅しんとろ**

- 0229-25-3144
- 10:00～16:00
- 不定休

「とろり」としたお湯が人気の「しんとろの湯」の敷地内にある「ゆの駅しんとろ」。地域の野菜や特産品などを販売するほか、食堂も併設されている。

中山平簡易郵便局

平成元年から開始。ハガキ・切手・印紙・預貯金・ゆうパック等取り扱っている。

- 0229-87-2100
- 9:00～16:00
- 土曜、日曜、祝日

倉加屋

昭和2年創業の倉加屋は、中山平温泉駅前の「地域のお店」。ガス・灯油、薬や日用品から雑貨、お酒も扱っているだけではなく、中山平温泉の「観光案内所」にもなっている。

- 0229-87-2201
- 9:00～18:00
- 不定休
- http://www.kurakaya.jp

買

イイダストアー

平成元年に開店し、鮮魚、野菜、果物、お肉など食料品全般を販売する「スーパーマーケット」。鮮果・塩釜の仲卸売市場で仕入れた鮮魚が時には店頭に並ぶ。地域の人々や湯治の自炊客に新鮮な食材を販売している。

- 0229-87-2778
- 7:30～18:30
- 第2・4日曜定休

遊佐商店

代々、60年にわたり、駄菓子、雑貨、タバコ屋として続いてきた「遊佐商店」。中山平温泉駅前にある雑貨店で、中山平地区では唯一のタバコの自動販売機を設置しており、地元の人はもとより、観光客もよく利用している。

- 0229-87-2410
- 7:00～19:00

MAP **18 玉鳴号**（たまなごう）

地下1,000mから湧き出た温泉を非加熱でボトリングした天然アルカリイオン温泉水。商店街や温泉旅館で販売。

「玉鳴号」の名前は、先代が育てた大正天皇に献上した馬の名前に由来している。

- 150円(500ml)
- 0229-87-2201（倉加屋）

「中山平」

「中山平」は原料米に中山平の「ひとめぼれ」を使用し、天然アルカリ温泉水「玉鳴号」を仕込み水にして造られた中山平温泉の完全オリジナル地酒。ラベルの題字から仕込作業も行う地元手づくりのお酒。

- 2,800円(1,800ml)
- 1,700円(720ml)
- 700円(300ml)
- 0229-87-2201（倉加屋）

中山平アイスクリーム

濃厚なジャージー牛乳（大崎市田尻）とブルーベリーで作った「ブルーベリーアイス」。「ゆきむすび」の お米をつかった「ゆきむすびアイス」がある。駅前商店街や温泉旅館売店、鳴子峡レストハウスなどで販売。

- 280円
- 0229-87-2201（倉加屋）

ゆきむすび

つくる人、食べる人、みんなの力で地域の農を守りたい。全国に知れ渡った「鳴子の米プロジェクト」の生産者によって作られた「ゆきむすび」は、地域の自然環境を活かして丁寧に栽培されている。

- 0229-29-9436（NPO法人 鳴子の米プロジェクト）

ブルーベリージュース・ジャム

焼石赤（やけいしまた）のブルーベリー園で収穫された無農薬、無化学肥料栽培のブルーベリーを原料に、果汁100%でつくられたジュース、吟醸原酒に漬けた濃厚なブルーベリーリキュールや、保存料を一切使っていないブルーベリージャム「鳴子の輝」もある。

- ジュース 2,000円(500ml)
- ジャム 540円(145g)
- 0229-87-2413（ゆき果実工房）

湯あがりサイダー

鳴子の天然アルカリ温泉水「玉鳴号」を使った地サイダー「鳴子温泉湯あがりサイダー」。甘さ控えめのすっきりとした味に仕上がっており、湯上がりの水分補給に最適。鳴子温泉の旅館やホテル、市内の土産店などで販売。

- 280円
- 0229-87-2201（倉加屋）

中山平温泉駅前MAP

中山平温泉駅の開業は大正6年11月1日。開業当初は「中山平駅」だったが、平成9年（1997年）に「中山平温泉駅」に名称変更した。小さな無人駅だが、駅前の商店街が清掃・管理をしており、地域に親しまれている駅舎。駅待合室には見蕩が中山平の四季を描いたタイルが飾られている。

食観楽

MAP **1 鳴子峡**

中山平温泉を流れる大谷川によって形成されたV字渓谷で、木々と奇岩と清流が織りなす深さ約100mに及ぶ大渓谷。鳴子峡レストハウスの見晴らし台から渓谷にかかる大深沢橋を眺める景色は絶景。紅葉の見頃は10月下旬～11月上旬で、ブナ、ナラ、ウエデなどが紅や黄に染まり、峡谷を紅葉が鮮やかに彩る。遊歩道（鳴子峡レストハウスから回廊橋まで通行可能）で回廊橋まで進み鳴子峡を見上げる景色は圧巻。

大深沢駐車場のそばにある「新展望台」からは右渕山と大谷川を一望することができる。

- 9:00～16:00（雨天時閉鎖）
- 鳴子観光・旅館案内センター
- 0229-83-3441
- http://www.naruko.gr.jp/

MAP **5 鳴子峡レストハウス**

- 0229-87-2050
- 8:30～17:00（レストランは14:30まで）
- 定休日なし（12月～4月中旬）
- あり（大型可）第1～3駐車場は期間限定で有料

大深沢橋を望む景観を楽しみながら食事ができる。レストラン、軽食、ファーストフードのほか、売店コーナーには中山平の味、木地玩具や漆器をはじめ、地子エリアの物産が集結している。

MAP **6 イロハモミジ**

鳴子峡第３駐車場付近は「不二ヶ丘」と呼ばれ、イロハモミジはシンボルとなっている。昭和初期に京都嵯山から移植された。紅葉時期は鳴子峡の中でも最も遅く、11月初旬から中旬にかけて色づくため、落葉が始まる頃の鳴子峡には欠かせない スポットとなっている。

MAP **30 堺田大分水嶺**（だいぶんすいれい）

中山平と県境を接した山形県最上町堺田にある「堺田大分水嶺」。大分水嶺とは、降った雨が日本海に向かうか太平洋に向かうかを分ける境目のことで、ここ堺田の大分水嶺は北側から流れ下ってきた水路が東西に分かれる様子を見ることができる珍しい大分水嶺。東側（宮城県）は江合川、旧北上川を経て約116kmを下り石巻市で太平洋へ、西側（山形県）は小国川、最上川を経て約102kmを下り酒田市で日本海に注ぐ。

- 0233-43-2233（最上町観光協会）

MAP **14 中山平温泉駅の大桜**

1917年（大正6年）11月の中山平駅開業に合わせ、中山平温泉駅前に6本のソメイヨシノが植樹された。道路整備などで少しずつ減り、今では１本だけが残っている。ソメイヨシノの寿命は60年といわれる。平成10年に一度枯れ始め危機を迎えたが「大桜愛好会」の人々の努力によって守られ、いまは樹齢90年以上で、幹周り3.4m、高さ約10mまで成長した大桜である。見頃は4月末～5月上旬で、日暮れから22時までライトアップされる。

- 中山平温泉観光協会
- info@nakayamadaira.com
- http://www.nakayamadaira.com/

ノルディックウォーキング

「ノルディックウォーキング」とは、2本のポール（ストック）を左右の手で握り、心地よく歩くスポーツ。中山平温泉では、観光協会が主催する「ノルディックウォーキング大会」が毎年春と秋に開催される。メインのコースは中山平に残る「出羽街道中山越」芭蕉の歩いた「おくのほそ道」をたどるというもので、年々参加者も増え多くの参加者でにぎわっている。その他の「大深沢遊歩道」や「中山平遊歩道」など、毎回コースにも趣向が凝らされており人気も高まっている。中山平温泉には現在「アクティビティーリーダー」が11名おり、ベーシックインストラクターと合わせて計13名が指導に当たっている。

- 中山平温泉観光協会
- info@nakayamadaira.com
- http://www.nakayamadaira.com/

スノーランタンフェスタ

冬の中山平温泉の楽しみは、雪で作ったランタンにミツバチの蜜ロウで作ったキャンドルをともす、柔らかなオレンジの炎のゆらめきが幻想的な「スノーランタンフェスタ」。からだも温まるとん汁、おしるこの出店の他、大好評の雪山の滑り台も楽しめる。

- 中山平温泉観光協会
- info@nakayamadaira.com
- http://www.nakayamadaira.com/

大谷川渓流釣り（おおやがわ）

尿前の関で江合（荒雄）川と合流する大谷川には、いろいろな沢が合流している。地図に載っている沢の名前だけでも、右岸で合流するのは東遠鈴（清水）沢、大きな沢では岩堂沢、中流域では、西沢、東沢、そして左岸は後沢、鮫村沢、宿ノ沢、沙沢、柿沢、大深沢、小深沢など、これらの渓流にはイワナやヤマメも生息しており、渓流釣りも楽しめる。

- 毎年3月1日～9月30日まで
- 年券6,000円／日券2,000円
- 遊漁証取扱所 0229-78-2526（江合川漁業協同組合）0229-87-2201（倉加屋）

MAP 15 17 19 20 21 **ブルーベリー摘み取り園**

中山平挑石赤（やけいしまた）地区は、山間の冷涼な気候と雑性土壌という「ブルーベリーの栽培に適した地域で、現在5軒の生産者が約10種類もの ブルーベリーを栽培している。7月から8月の収穫期には摘み取り園もオープン。無農薬・有機栽培でそのまま食べられるので多くの観光客が足を運んでいる。この素材を活かし、ブルーベリージュース、アイスクリーム、ジャムなどの加工品や、旅館ではブルーベリー酒を作り、食前酒などに利用されている。

- 9:00～
- 7月上旬～8月中旬
- 大人500円 小人250円
- ご予約・お問い合わせは各摘み取り園まで

うえのブルーベリー園	0229-87-2655	たかはし農園	090-5590-1194
関農園	0229-87-2190	ブルーベリーヒル	0229-87-1234
		ゆき果実工房	0229-87-2413

MAP **24 南原ホタルの里**

ホタルは強い光を嫌うので、車は専用駐車場を利用し、懐中電灯やカメラのフラッシュ等も控えること。

国道47号の南側に広がるのが南原の豊かな田園地帯。ここの澄んだ水で育つホタルの群舞が観られる。

中でも南原堰ではゲンジボタルへイケボタルの二種が飛び交う、全国でも珍しい共生域となっている。また、ヒメボタルも生息している。ゲンジボタルは、15mが後で、上下にゆらゆら飛ぶ。ヘイケボタルは、10m前後で、ゲンジに比べ飛び方は直線的。ヒメボタルは、もっとも小さく約7mで、オスは飛翔しながら発光するが、メスは草木につかまった状態で発光する。

- 6月下旬～7月下旬
- 蒸し暑い日の20:00～21:00頃がよい
- 専用駐車場あり（15～16台）
- 0229-87-2361（佐藤漆工房）

MAP **27 岩堂沢ダム（螢泉湖）**（がんどうさわ　けいせんこ）

平成21年の秋に完成した農業用ダム。直線型の堤の長さは200m、総貯水量約13,480千㎥で、下流域の大崎市他 3町約10,400haに展開する穀倉地帯、大崎耕土への農業用水の供給を担っている。

鳴子峡からは車で15分程度の距離で、南原の「神の木」の先にゲートがあり、その先には900mほどの「二ツ森トンネル」がある。トンネルを抜けると目前に大きなダム湖が広がる。神秘さをたたえる湖面には、新緑を映し出す春、青空の青に染まる夏、紅葉に彩られる秋と季節ごとに違った表情を見せる。しかし、ダムの3kmほど手前のゲートは12月～4月の冬季間は閉鎖されてますのでご注意。

- 大崎市ダム総合事務所
- 0229-63-2845
- osdam@pref.miyagi.lg.jp

MAP **23 南原穴堰**（あなぜき）

江戸時代・正保年間（1644～1647年）に全て手掘りで作られた総延長1,880mの灌漑用水路。宮城県と山形県の堺に位置し、中山平温泉駅の西南約2kmにあり、約360年経過した今でも農業用水、生活用水として使われている。そのため南原地域の人々の共同作業によって守り続けられている。

MAP **26 神の木**

かつては、ここ南原の山林で木を挽きお椀やお皿を作ったり、炭焼きなどを生業にしていた人々が生活していた。人々は杉の高林地の中で育つナラの大木をいつしか「山の主」と呼ぶようになった。数十年程前から注連縄（しめなわ）を飾るようになり、「神の木」として崇められるようになった。

MAP **12 古峯神社**（ふるみね）

昭和7年春、放火により中山平温泉駅前の住宅6軒が全焼するという事件があった。その翌年、駅前地区の有志により、二度とこのような事が起きないようにとの願いを込め建立された神社。毎年5月の第2日曜日に祭典があり、駅前広場にて演芸会が開催される。

- 中山平温泉観光協会
- info@nakayamadaira.com
- http://www.nakayamadaira.com/

MAP **3 日本こけし館**

- 0229-83-3600
- 8:30～17:00（12月は9:00～16:00）
- 4月1日～12月31日
- 大人320円
- http://www.kokeshikan.com/
- あり

昭和28年に詩人で童話作家の深沢要さんのコレクションが旧鳴子町に寄贈されたことと、昭和32年から毎年、全国のこけし工人から「こけし」祭りへ奉納こけしが送られることがきっかけとなり建設、工人による製作実演の見学、絵付け体験などもできる。

MAP **7 中山平遊歩道**

鳴子峡レストハウスの第3駐車場から中山平温泉に通じる「中山平遊歩道」。この遊歩道は、中山平温泉観光協会のメンバーがつくりあげた遊歩道で、約450mの遊歩道。この最大の魅力は何と言っても「見晴らし台」。トンネルのすぐ上に位置するため、線路を真上から見下ろすことのできる珍しい眺めや、今まで見ることができなかった中山平温泉を一望できる、素晴らしい景色に出会える新たな名所。

- 中山平温泉観光協会
- info@nakayamadaira.com
- http://www.nakayamadaira.com/

MAP **4 大深沢遊歩道**

鳴子峡の一部不通にともない、歩きやすく快適な新たな遊歩道の設置が必要となり、ゆったりとした幅員約4m、ゆるやかな勾配の大深沢遊歩道が開通。距離は2.2kmであるが40～50分で歩くことができる。モミジやカエデなど、落葉広葉樹と遊歩道のほぼ中間にある大深沢の流れを越え、春には新緑の森林浴、秋には紅葉狩りに最適のコースでグループでご家族で楽しめる。

- 中山平温泉観光協会
- info@nakayamadaira.com
- http://www.nakayamadaira.com/

MAP **14 レンタサイクル（電動アシスト付き）**

中山平温泉観光協会では、中山平温泉駅前に「レンタサイクル」を設置。国土風景と里山の景観を眺めながら、南原地区をはじめとした中山平を自転車で散策し、名所めぐり、湯めぐりに利用できる大変便利になった。自転車は、バスケット付・電動アシスト自転車(3段シフト)で、4台設置されている。

- 4月～11月
- 9:00～17:00
- 500円（3時間）／800円（8時間）
- 身分証提示が必要。予約不可。
- 利用申込はイイダストアー 0229-87-2778

日曜山村学校

中山平の自然に恵まれた環境の中で都市住民が一緒に農作業体験をし、農業の素晴らしさを実感してもらおうと始めた学校。校長の上野さんは「鳴子の米プロジェクト」の代表も務めている。

- 5月～11月までの第2・第4日曜日
- 年会費 個人 15,000円／夫婦（家族）20,000円
- 1日体験 1,500円
- 0229-87-2361（事務局 佐藤）

写真：小深沢

中山平温泉へのアクセス

JRで

東京 → 東北新幹線 約120分 → 仙台 → 東北新幹線 約15分 → 古川 → 陸羽東線 約50分 → 中山平温泉

仙台 → 陸羽東線 約50分 → 小牛田 → 陸羽東線 約25分 → 鳴子温泉 → 陸羽東線 約7分 → 中山平温泉

車で

東京 → 東北自動車道 → 仙台 → 東北自動車道 → 古川 → 国道47号 → 中山平温泉

東京～古川 約325km（約4時間）　古川～中山平 約35km（約45分）

飛行機で

仙台空港 → 仙台空港アクセス鉄道 約25分 → 仙台 → 東北新幹線 約15分 → 古川 → 陸羽東線 約50分 → 中山平温泉

山形空港 → タクシー 約15分 → 天童 → 山形新幹線 約35分 → 新庄 → 陸羽東線 約60分 → 中山平温泉

制作協力・監修　中山平温泉観光協会　中山平温泉旅館組合

企画・発行　宮城県北部地方振興事務所地方振興部
TEL:0229-91-0763　FAX:0229-91-0749
URL:http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-e/

WEB　おくのほそ道散策マップ ～出羽街道中山越 芭蕉の道を訪ねて～
http://www.nakayamadaira.com/sansaku/

この印刷物は有害物質フロンガスと水なし印刷を採用しています。

植物由インキを使用しています。

発行：平成30年3月

※記載されているデータは平成30年2月現在のものです。

湯めぐりスタンプラリー

中山平温泉9軒の旅館と、しんとろの湯を併せた10軒の温泉に入浴すると、全旅館としんとろの湯の名入れ特大バスタオルとトートバックでは中着がもらえる。記念品の交換はしんとろの湯で。

湯めぐりスタンプラリー参加の温泉　露天風呂のある温泉

ゆころんグッズ

平成21年、中山平温泉の新しいキャラクターとして誕生したのが「ゆころん」。愛称は全国公募のなかから選ばれた。「温泉のお湯（ゆ）と、ころころとしたかわいらしさ、中山平温泉で、ころんとくつろいでいただきたい」という思いから付けられたもの。中山平の温かさや魅力を伝える「ゆころん」のキャラクターグッズには、バスタオル、Tシャツ、ボールペンやシールなどがある。

すべすべ美肌の湯 中山平温泉

MAP **10 あすか旅館**

鳴子温泉郷で唯一、飲料許可を取得している旅館で、日帰り入浴客だけではなく、温泉水を求めて来るお客がひきも切らない宿。

- 単純温泉
- 8.9
- 10:00～17:00
- 0229-87-2131

MAP **8 仙庄館**

ファミリー、カップルから団体まで楽しめる充実した施設が自慢の宿。大谷川を見下ろす立地に月見の露天風呂と情緒もたっぷり。

- 単純硫化水素泉
- 7.4
- 10:00～22:00
- 0229-87-1234
- http://www.sensyokan.co.jp/

MAP **3 鳴子やすらぎ荘**（船形渕保養所）

漁業・船舶に関わる船員と その家族だけしさを忘れて過ごす保養施設。良質の泉質と眺めのいい露天風呂で気分もリフレッシュ。

- 単純硫黄泉
- 8.4
- 11:00～15:00
- 0229-87-2121
- http://www.sempos.or.jp/naruko/

MAP **2 湯ったり ふきゆ荘**

介護保険制度を利用して要介護者を対象とした、日中の食事入浴排泄のお世話と宿泊を提供している。

- 単純硫黄水素泉
- 6.5
- 要問い合わせ
- 0229-87-2239

MAP 6 **名湯 秘湯 うなぎ湯の宿 旬樹庵 琢ひで**（たく）

鳴子温泉郷の中でも屈指の名湯「うなぎ湯」として知られる琢ひで。呼び名のとおりの「とろり、ぬるり」とした湯に美肌効果あり。

- 含重曹芒硝硝黄泉
- 9.4
- 10:30～14:00
- 0229-87-2216
- http://www.takuhide.co.jp/

MAP **7 鳴子らどん温泉**

昔から切り傷・やけどに良いと言われている美肌つるつるスベスベの源泉掛け流し温泉でパラエティに富んだ風呂が楽しめる。

- 含重曹芒硝硝黄泉
- 9.0
- 10:00～17:00
- 火曜定休
- 0229-87-2323
- http://www.radononsen.com/

MAP **9 星の湯旅館**

静かにのんびり楽しめる小さな宿で、天然の源泉掛け流しを総檜の湯船で楽しめる。三泊以上の食事つき湯治もできる。

- 単純温泉
- 8.7
- 11:00～19:00
- 0229-87-2311
- http://www.hoshinoyu.jp/

MAP **4 しんとろの湯**

平成17年にオープンした中山平温泉の日帰り公衆浴場。93℃の源泉を200mの木樋に流して自然冷却、源泉掛け流しにこだわっている。

- 含重曹食塩硫黄泉
- 9.4
- 9:00～21:30
- 0229-87-1126
- http://spashintoro.com/

MAP **5 なかやま山荘**

日本庭園をながめながらのんびり入れる、とろとろのお湯は素肌にも髪にも優しく、美肌の湯として親しまれている。

- アルカリ性硫黄泉
- 8.9
- 11:00～20:00
- 0229-87-2101
- http://nakayamasansou.jp/

MAP **1 四季の宿 花渕荘**

四季の移ろいを楽しめる庭園を始める露天風呂。とろりとした お湯は、美肌の湯として親しまれている。

- 単純泉
- 7.5
- 9:00～21:00
- 0229-87-2146
- http://www.hanabuchi.com/

中山平 NAKAYAMADAIRA ONSEN 温泉

MAP **10 大久保整体療術院**

昭和55年に東京から中山平に転居し民宿を営んでいたというご主人。平成4年から整体療術院を始め、観光協会の一員としても頑張っている。手技を中心に丁寧な整体をとのぶけ、一人一人に合わせた施術を行っている。山の別荘地で開業しているため、口コミだけで来るお客様が中心。東京、埼玉、横浜などの関東圏から訪れる方も多いとよい。お湯を楽しんだ後に是非。

- 0229-87-2960
- 9:00～18:00
- 月曜定休

Nakayama daira The Naruko Spa

きらきら美肌の湯 中山平温泉

おくのほそ道散策マップ

出羽街道中山越　芭蕉の道を訪ねて

俳聖・松尾芭蕉のたどった足跡は、「歴史の道」「奥の細道」として整備され、多くの人々に愛されています。鳴子・中山平温泉の森の中には、この古道『出羽街道中山越』が、今も当時のままの姿で残されています。

ここでは、中山平温泉の入り口である「尿前の関跡」から「封人の家」までの約10ｋｍの区間を、中山平を中心に芭蕉のたどった古（いにしえ）の道を行く旅をご案内いたします。

出羽街道中山越を歩く 参
～山神社から軽井沢・封人の家へ（軽井沢コース）～

出羽街道中山越のルートの中で一番歩きやすく、周辺のロケーションが変化に富んでいるのが軽井沢コース。中山宿跡からすぐに山神社があり、そこから続くうっそうとした杉木立の道はまるで時代劇の街道筋のような趣がある。その木立を通りすぎて坂を上ると眺めは一転し西原ののどかな農道が続き、晴天なら陽の光を存分に受けながら約13キロ先の軽井沢越え入り口までトレッキングが楽しめる。軽井沢越えの森の中に分けへると、また道の表情が変わり、なだらかな起伏と腐葉土の柔らかさがシューズの下から伝わり足取りも軽くなる。軽井沢コースの特徴は、このゆるやかな起伏が続く道を陽ざしが照らしている明るさだろうか。小深沢・大深沢のうっそうとした原生林を歩くのとは違い、明るい。スギゴケが道のいたるところに生えており、それらが木もれ日に照らされる光景はとてもすがすがしい。軽井沢コースにはベンチや東屋が多く、木々を渡る風を感じ、鳥の声を聞きながらのひとやすみも格別。

出羽街道中山越を歩く 弐
～小深沢から大深沢・中山宿跡へ～

芭蕉と曽良が中山平を越える少し前に仙台藩が尿前の関を整備したという。それというのも日本海側と太平洋側を隔てる奥羽山脈越えの中でも「出羽街道中山越」は標高が低く、比較的越えやすいところだったため。古くは大崎氏の時代から、当時の仙台藩にとっても軍事的な要衝として守りの要だった。そのため藩政時代は沢を越える道にも橋を架けることなく、旅人には難所として知られていた。現在、小深沢・大深沢の沢越えのポイントには、板の橋が架けられているが、芭蕉と曽良が歩いた当時はこれもなく、けもの道のようなわずかな踏み跡を頼りに歩いたという。義経一行もたどったという山道らしいが、曽良と二人だけではさぞかし心細い道行だったことだろう。今この道を歩いても、その心細さを感じることはできないが、往時のことを思うと確かに難所だったろうと思われる。うっそうと茂るブナ、クリ、ナラやカエデといった木々の枝葉が陽の光を遮る道を抜けると、芭蕉が訪れた当時と変わらないと思われる美しい風景が現れる。ここが難所「大深沢越え」とはちょっと信じられないスポットとなっている。沢の周辺に差し込む光の中で苔むした石が、『古道』の趣を強く語りかけてくる。

おくのほそ道…

俳聖・松尾芭蕉『おくのほそ道』

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也…」

この冒頭文で知られる松尾芭蕉の『おくのほそ道』。今から三〇年ほど前、江戸深川を旅立った俳聖・松尾芭蕉とその門人、河合曽良の旅は、五百年忌を迎えそいた西行をはじめ、古の歌人の足跡を訪ねる旅であり、また、三十歳にして没した悲運の将源義経を追慕する旅だったといいます。

中山平温泉に残されている古道は、道標や地図には「出羽仙台街道中山越」とも表記されていますが、正式名称は「出羽街道中山越」といいます。「出羽仙台街道」は、奥州街道吉岡宿から分かれて、中新田、岩出山、鳴子を経て出羽に至る峠越の道。元禄二年（一六八九）奥州行脚に旅立った芭蕉は、平泉から引き返し、仙台藩から出羽にはようとしてこの道を通ったとおくのほそ道」に記しています。この街道は、義経の時代から軍事上の要衝として知られ、渓谷に橋を架けることもなく、旅人たちがたどったルートでもあります。

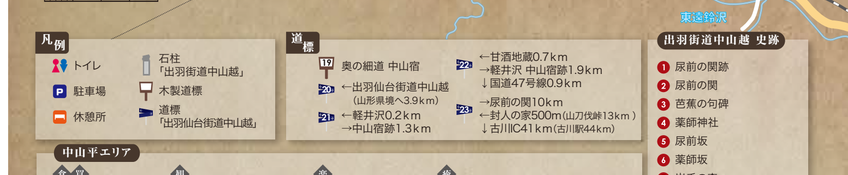
松尾芭蕉が「奥の細道」に旅立ったのは六八九年、芭蕉四十六歳、曾良の四十歳の時でした。深川からの旅を続け二人が仙台藩に入ったのは今の暦でいうと五月のこと。さらに、仙台～宮城野～塩釜～松島～石巻を経て二路平泉へと足を運び、再び南下して、岩出山に入ったのが六月の末でした。岩出山を月日に出立した芭蕉と曽良は、たどりついた「尿前の関」できびしい取締りにあい、ようやく通行を許可されて、鳴子の湯に浸かる余裕もなく、そそくさと難所の「中山越」に足を進め、その日のうちに出羽の堺田に着いています。

◇参考文献　鳴子町史 上・下巻

出羽街道中山越を歩く 壱
～尿前の関から小深沢へ～

芭蕉と曽良が鳴子を訪れたのは1689年７月１日（元禄２年、旧暦５月15日）。「おくのほそ道」の旅に出てから47日目のことだった。しかし尿前の関にたどりついたものの通行手形（今でいうパスポート）を持っていなかったため、関守に怪しまれてなかなか通過を許されなかったという。前夜は、奥州では知人もいないこ細さから、まさに「道の奥」であり「細道」であることを強く実感していた記述が見られる。紀行文「おくのほそ道」の冒頭の一文に詠われているのは、『すべては旅に似ている』という芭蕉が抱く人生観である。芭蕉が通過するのに苦労したこの関所跡が、出羽街道中山越、小深沢に至る道のスタート。芭蕉が訪れた６～７月には、関跡の広場に建てられた芭蕉像の傍らにツツジが咲き誇る。

◇参考文献　鳴子町史 上・下巻



中山平温泉 遊歩道の魅力を探る

中山平温泉には、芭蕉の歩いた「おくのほそ道～出羽街道中山越」の他にも散策に適した遊歩道がたくさんあります。

鳴子峡

雄大な景色と、鮮やかな四季の美しさに彩られる大渓谷。高さ100mほどの断崖絶壁が2.5km以上に渡って続き、遊歩道（鳴子峡レストハウスから回顧橋まで通行可能）や見晴らし台からは、四季折々の美しい渓谷美が楽しめる。10月下旬から11月上旬が紅葉の見頃で、周囲の木々が赤や黄色で彩られる。なお、大深沢駐車場のそばにある「新展望台」からは、花渕山と大谷川を一望することができる。

中山平遊歩道

平成22年秋に開通した「中山平遊歩道」。大深沢遊歩道の出入り口、鳴子峡レストハウスの第3駐車場を迂回して遊歩道に入り、中山平温泉街へとつながる約450mのルート。この遊歩道の素晴らしいところは、大谷川と陸羽東線の音を崖下に聞きながらたどりつく「見晴らし台」の眺望の素晴らしさと、これまで眺めることのできなかった中山平温泉を眼下に一望できるところ。足元のトンネルを抜けて走る列車が見えるというロケーションも魅力。

大深沢遊歩道

平成20年10月に新設された遊歩道で、歴史の道をたどりつつも、より広くて安全なルートをとの要望から誕生した。幅員が約4m、勾配の緩やかな約1.5kmのルートで、40～50分で歩ける。出羽街道中山越と合流し、大深沢に下る石段、沢越えを体験できるため森林浴にはもってこいのルート。遊歩道の傍らにはモミジやカエデ、クリやトチなどの落葉広葉樹の木立が続き、秋には色とりどりの色彩がトンネルとなって迎えてくれる。もちろん新緑の時期もおススメのコースとなっている。

軽井沢コース

軽井沢コースは、出羽街道中山越のルートの中でも、まるで里山のハイキングコースのような、のどかな風景の中を歩くルート。中山宿跡から山神社を通り抜け、大柴山のふもとに広がる西原の田園風景を眺めながら農道を進むとやがて軽井沢コースの入り口にさしかかる。この先はモミジ、イタヤカエデ、ホウノキなどの広葉樹の森の中をのんびりと進み、清らかな沢越えも味わえる「おくのほそ道」が堺田の出口まで続く。

中山平おくのほそ道散策マップうら

内山伊右衛門の墓（No.10）

慶応4年（1868）閏4月22日、薩摩藩士・内山伊右衛門が、官軍に捕縛した秋田藩への弾薬輸送の途中、鍋越沢で仙台藩の荒井平之進ら5名に暗殺された。墓は明治3年（1870）鹿児島から内山の子孫が訪れて建立した。

斎藤茂吉歌碑（No.9）

山形県出身の歌人で精神科医だった斎藤茂吉（1882～1953）の歌碑。「アララギ」の中心的歌人だった茂吉が、鳴子の芭蕉の道を訪れて詠んだ句。（昭和59年11月建立）

『元禄の芭蕉おきなもここ越えて旅のおもひをとことはにせり』

前田夕暮歌碑（No.12）

「憩の森（ふるさとの森）」の傍らには、神奈川県出身の歌人・前田夕暮（1883～1951）の歌碑が建つ。（平成4年10月建立）

『あさかぜにふきあふらるるあおかしのさやくを聞けばすでに春なり』

小深沢（No.11）

国道と合流した先の小深沢橋に「小深沢入口」の道標があり、左手の沢に下る。200mほどで小深沢を越える。この沢からの昇り階段が古道の風情を高めてくれるロケーションとなっている。その先のつづら折れをよりきると左手に「ふるさとの森」を見ながら平坦な道が続く。大深沢に次ぐ難所といわれた小深沢越え。

大深沢（No.13）

大深沢は、軍用の要衝として橋をかけなかったため、深い谷底へ下りて越さねばならないつづらおりの道が続く最も険しい沢だった。小深沢から続く平坦な森には道と交差するように土塁や空堀の跡が今も残っている。現在は橋がかかり、沢への急こう配も石組みの階段が設けられて、せせらぎの音とともに美しい光景にうっとりする。

「尿前の関跡」と「尿前の関」（No.1 2）

義経伝説に、亀割峠で生まれた亀若丸が、この地にきて初めて啼き、尿をしたのがこの関の場所で、以後「尿前」と呼ばれるようになったとある。大永年間（1521～27）には小屋館「岩手の関」が構えられ、仙台藩になって「尿前境目」、寛文10年（1670）に「尿前番所」となった。芭蕉と曽良は元禄2年（1689）この関所であやしまれ、事情を説明してもなかなか信じてもらえなかった･･･という記述が残っている。

尿前坂・薬師坂（No.5 6）

出羽街道中山越の入り口の坂が「尿前坂」。尿前の関跡から急勾配の坂（階段167段）を上って「国道47号に出る。左寄りに横断した先にある「薬師坂」（階段部分176段）を上ると岩手の森に出る。この森は、尿前の関所が坂下に移るまで番所が置かれていた所で、薬師堂跡には宝珠のみが置かれている。この薬師堂が坂の名前の由来となっている。一帯は「鳴子公園」で、出羽街道中山越ルートの左手には「日本こけし館」がある。

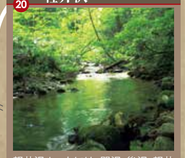
芭蕉の句碑・薬師神社（No.3 4）

尿前の関近くの林の中にある「芭蕉の句碑」は、芭蕉が通過してから約80年後に建てられたもの。自然石の句碑で石積み台の上に建てられ、表面の中心に「芭蕉翁」、右に「明和五年六月十二日建 俵坊鮫文 主立周谷」、裏面には「蚤虱馬の尿する枕もと」の句が刻まれている。俳句を愛するこの土地の人々が芭蕉の通過したことを記念し、建立したものだと伝えられている。句碑の奥、栗や欅の中に建っているのが「薬師神社」である。

封人の家（旧有路家）（No.24）

山形県東部に古くから見られた茅葺き寄棟造り、広間型民家の好例として重要文化財に指定された最上町所有の建造物（昭和44年12月18日、国指定重要文化財）。「封人」とは国境の守役のこと。芭蕉と曽良は中山越の後、ここで雨のため三日間足止めされた。

軽井沢（No.20）



軽井沢ルートには、関沢、後沢、軽井沢の３つの沢がある。中でも軽井沢へのアプローチは、山形県側からも宮城県側からも沢に近づくほどに、とても景色が良く、心に響く、清らかで冷たい軽井沢に架ける橋を静かに渡ると、運がよければそこに「岩魚」の姿を見ることができる。

山神社（No.18）

義経伝説によって建立された「山神社」は、中山平では最も大きな社殿を持ち、昔は角力（すもう）や神楽などが三夜二日行われたこともあったという。現在、10月の例祭で、奉納神楽などが行われている。周辺には道祖神、庚申碑たども。

甘酒地蔵尊（No.22）

義経一行にまつわる「甘酒地蔵」の伝説で、一行を猿がお堂を建てて甘酒で接待し、そのお礼に弁慶が猿の安全を祈願し地蔵尊を祀ったといわれている。

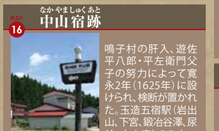
青面金剛童子碑・庚申碑

昔「庚申の日」には人体に棲む「三尸（さんし）の虫」という虫が、寝ている間に体外に出て天の神にその人の罪を告げ、生命を奪う･･･という言い伝えが、それを防ぐため、庚申の日には村人が身を清め、一軒の家に集まり夜を過ごしたという。青面金剛は、庚申会の守り本尊。

遊佐大神碑（No.17）

中山宿は、鳴子村の初代肝入、遊佐氏六代平八郎宣重などが大きく貢献した。名関守と慕われた遊佐平左衛門の徳を偲び、天保10年（1839）、遊佐碁之亟などによって建てられた、「遊佐大神碑」と「岩淵大明神碑」が並んで建つ。

中山宿跡（No.16）



鳴子村の肝入、遊佐平八郎・平左衛門父子の努力によって寛永2年（1625年）に設けられ、検断が置かれた。玉造五宿駅（岩出山、下宮、鍛冶谷澤、尿前、中山宿）のひとつで、国境警備と連絡の要衝だった。幕末期は戸数10戸、住人46人と記録されている。